

△ △ △
米國で美術學生が或技術によつて生活を支へ苦學するには、通學の餘暇メモカード、肖像、挿繪等を畫くのであるが、渡米前にそれ等のうちの一を選び研究してゆくと便利である、そしてメモカード畫きが一番得策のやうに思ふ。

メモカードとは料理屋の献立用紙で、多くは水彩繪具を用ひて草花等を畫く、日本畫を應用して一筆にて描き上げ、彼地の畫工の出來ぬことをせねばならぬ、凡そ五六ヶ月も稽古してゆけば生活には差支あるまい、但し毎日新意匠を要す。次に肖像畫は好奇心から注文を受けるが、メモカードのやうに常に仕事に絶えずあるといふとは請合へぬ。次には木彫法を少し習得してゐると家具類の修繕師として働くことが出来る。次に挿繪家として活動するのは中々有望の仕事で、此法を心得てゐると、廣告畫の請負雜誌挿畫の仕事が得られる。建築圖案及製圖等の仕事は素養のないものには出來ぬ。そして以上の働きには新聞雜誌の廣告を利用すれば容易に得らるゝ。

其他にランプ笠の模様畫きといふ仕事がある、日本畫を應用して草花類を畫くので、色彩の配置を心得てゐて、參考品を澤山持つてゆけば容易な仕事である。それで米國には美術苦學生が澤山あつて、紐育のみでも日本人で七名も居た、中には仕事の傍ら勉強して成功を告げ、同時に貯蓄して尙ほ歐洲に渡航した人もある。(戸張孤雁氏『北米美術學生々活談』渡米)

△ △ △
圖畫科の教育的價值

形式上の價值

- 一、觀察を精密ならしむ習慣を養ふ
- 二、思考を正確にし記憶を確實ならしむる習慣を養ふ。
- 三、想像力及工夫發明の力を養ふ
- 四、心意集注、即ち注意勤務の習慣を養ふ
- 五、清潔整頓を愛する習慣を養ふ
- 六、美的趣味を養ひ高尚なる情想を養ふ

一は視覺練習上の價值、二、三は智育上の價值、四、五は意育上の價值、六は美的情操涵養上の價值

實用上の價值

- 一、工藝技術の基本を養ふ
- 二、思想發表上の利器たり
- 三、日常生活上に必要なり
- 四、他教科習得上に必要なり

一は手腕運用上の價值、二、三は思想感情教育上の價值、四は學修上の價值

以上一般を通じて目、手、心意鍛練の價值あるものなり(松井清氏『小學校』)

■本號口繪『殘雪』は製版不良にて原畫の趣きを失ひたり、即ち原畫の山はモット藍色強く、前景樹木は黃の色明らかに輝き居るなり。